

令和 4 年 6 月 12 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K03107

研究課題名(和文) 山川健次郎と近代日本の多角的研究 教育、東北、歴史認識

研究課題名(英文) YAMAKAWA Kenjiro and modern Japan, a multifaceted analysis

研究代表者

小宮 京 (KOMIYA, Hitoshi)

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：80451764

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、山川健次郎(1854～1931)の関係資料の調査分析を通して、近代日本の教育政策をめぐる構想と、地域における文化事業ならびに課題解決の実態について、明らかにすることを目指した。

その成果として、先行研究が国家主義的な傾向が強調するのに対して、民間や地域の視点を取り入れつつ、近代日本の教育政策とローカル・ガバナンスの観点から、既存の山川像を一定程度修正することが出来た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

山川健次郎に関して、ご遺族の協力のもとで新出資料を発見することができた。以前発見した「遺稿」などの資料をも活用することで、山川と近代日本に関して、新たな側面に光を当てた。それにより、既存の山川像を一定程度修正することが出来た。

それらの研究成果を論文等で公表するのみならず、多くの人々に向けて発信することを心掛けた。平成30年(2018年)は「戊辰150周年」であった。そこで、研究代表者の小宮は、「維新再考 第8部 明日への伝言 現代編3」(『福島民友』2018年12月3日朝刊)に、コメントした。研究分担者の中澤は、山川健次郎顕彰会の招待講演を実施した。このように研究成果を広く社会へ還元した。

研究成果の概要(英文)：Through research and analysis of materials related to YAMAKAWA Kenjiro (1854-1931), this study aimed to clarify the concept of modern Japan's education policy and the reality of local cultural projects and problem solving.

As a result, we were able to modify the existing image of YAMAKAWA to a certain extent from the perspective of modern Japanese educational policy and local governance, while incorporating private and regional perspectives, in contrast to the nationalistic tendencies emphasized in previous studies.

研究分野：日本現代史

キーワード：山川健次郎 東京帝国大学 高等教育 会津 戊辰戦争 教育政策 帝国大学 歴史認識

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

山川健次郎(1854～1931)は会津生まれ、戊辰戦争では白虎隊として従軍した。維新後はアメリカに留学して日本初の理学博士となり、東京帝国大学、九州帝国大学(初代)、京都帝国大学の総長を歴任した。さらに東宮御学問所評議員として昭和天皇の教育に関わるなど、教育界で重きをなした。

山川に関しては、戦前に刊行された、山川健次郎著『男爵山川先生遺稿』(故男爵山川先生記念会、1937年)や花見朔巳編『男爵山川先生伝』(故男爵山川先生記念会、1939年)に基づき、国家主義的な傾向が強調されてきた。

山川に関する信頼すべき史料としては、尚友倶楽部・小宮京・中澤俊輔編『尚友ブックレット 28 山川健次郎日記』(芙蓉書房出版、2014年12月)があげられる。

#### 2. 研究の目的

本研究は、山川健次郎の新出の関係文書の調査分析を通して、山川と近代日本の関わりを、教育政策や東北との関わり、歴史認識に注目して明らかにし、近代日本の実像を多角的に検証することを目指す。

#### 3. 研究の方法

従来の研究に対して、山川健次郎の新たな一面に着目しつつ、民間や地域の視点を取り入れ、近代日本の教育政策とローカル・ガバナンスを再検討する。

研究代表者(小宮)は、全体を統括すると同時に、山川の全体像と中央での教育政策や、会津の歴史認識に関わる活動について検討する。研究分担者(中澤)は、九州を中心とした高等機関設立に関して検討する。研究分担者(佐藤)は、会津を中心として、東北における山川の活動を検討する。このように、研究代表者と分担者で、ある程度分担しつつ、研究を進める体制を作った。

研究を進めるに際し、研究代表者(小宮)と研究分担者(中澤)が刊行に関わった、前掲『山川健次郎日記』を活用すると同時に、山川のご遺族から提供された新出資料のみならず、国立公文書館や、九州や東北の地方文書館、国立国会図書館憲政資料室が所蔵する個人文書などの、私文書・公文書を調査し、分析を加えた。

#### 4. 研究成果

この間、積極的に、学会報告を行い、論文や書籍を公刊した。以下、本研究により得られた成果について、論文や書籍を中心に叙述する。

研究代表者による、代表的な論文を取り上げたい。

山川の生涯を再検討し、留学に関する考察を論文として公表した(「山川健次郎の留学に関する一考察 黒田清隆とその北海道開拓構想に注目して」『青山史学』第37号、2019年)。そこでは、山川の留学は黒田が推進する国家事業としての北海道開拓構想に影響されたこと、当初はロシアへの留学が想定されていたことを論じた。

それから、山川と会津の歴史認識との関わりについても、論文として公表した(「山川健次郎と歴史編纂事業：『京都守護職始末』と『会津戊辰戦史』「幻の附録」を中心に」『青山学院大学文学部』紀要』61号、2020年)。その際、山川の地元の会津若松市立会津図書館に所蔵されている資料が、本来は『会津戊辰戦史』に収録されるはずの「幻の附録」であったことを論じた。全

体を通じて、山川と歴史編纂事業について、新たな一面を明らかにした。

さらに、山川が関わった学事暦の変更等の教育政策に関しても、論考を公表した（「日本の学校はなぜ「4月入学」なのか？ 100年前の大改革を振り返る」『論座』2020年5月4日）。また、山川の歴史認識に関連して、幕末の坂本龍馬に関する論考や、山川が東宮御学問所を通じて関わった昭和天皇に関する論考も、公表した。

研究分担者（中澤）は、山川健次郎の留学に関する考察を公表した（「明治6年の留学生帰朝命令と山川健次郎」『法律時報』2020年8月号）。

研究分担者（佐藤）は、戦前の公民教育に関して、論文を公表した（「政治教育と時事問題：及川儀右衛門の公民科教育」『日本歴史』858号、2019年）。それから、共編著の書籍としてその成果を公表した（佐藤健太郎・荻山正浩・山口道弘編『公正から問う近代日本史』吉田書店、2019年）。

特記すべきは、ご遺族のもとを調査した結果、新資料である『書簡集』を発見したことである。その利用を許可されたことから、研究代表者と研究分担者（中澤）が論文として公表した（「山川健次郎『書簡集』の基礎的考察」『青山史学』38号）。「研究開始当初の背景」で述べた通り、山川に関しては、戦前の『男爵山川先生遺稿』『男爵山川先生伝』をもとに議論される状況であり、山川に関する信頼すべき史料としては『山川健次郎日記』が存在する程度であった。『書簡集』は、これまでその存在が全く知られておらず、本研究を実施することにより、発見されたものである。そのため、これまで知られていた事実や『山川健次郎日記』などの資料を再検討することにより、山川の活動が明確になった。

例えば、山川がなぜ『京都守護職始末』を兄の浩名義で、明治44年に刊行したかについて、『書簡集』に収録されている健次郎の書簡を踏まえ、考察した（前掲、小宮「山川健次郎と歴史編纂事業」）。これは一例に過ぎない。今後も、本研究で得られた新出資料を分析することで、山川像を更新することが可能となろう。

論文や書籍などの研究成果を発表するのみならず、並行して、研究成果の社会への還元も重視した。平成30年（2018年）は「明治維新150周年」を記念する事業が全国的に行われた。これに対して、会津などは「戊辰150周年」を記念した。こうした、いわば歴史観の違いが可視化される機会が訪れた。そうした関心の高まりを踏まえ、山川と会津の歴史認識を中心に、研究代表者（小宮）は新聞の取材にこたえた（「維新再考 第8部 明日への伝言 現代編3」『福島民友』2018年12月3日朝刊）。また、研究分担者（中澤）は、山川健次郎顕彰会において招待講演を行った。

このように、学会報告や論文、書籍の公表などの研究活動、さらには社会貢献も含め、全体として非常に順調に進展しているかと思われた。

しかしながら、最終年度に新型コロナが発生し、蔓延したこともあり、最終的な取りまとめがうまくいかなかった。研究機関の延長を願い出たものの、2020年度以降も、新型コロナの感染状況を踏まえ、各地への移動を自粛せざるを得ず、資料調査や研究会の実施が難しい状況が続いた。

ともあれ、全体を総括すると、山川健次郎に関して、新出資料を用いながら、一定程度の見直しを行うことが出来た。また、研究代表者や研究分担者が新聞のインタビュー依頼を受け、招待講演にも招かれたように、社会的にも山川研究は大きな注目を集めた。

最後に、新資料『書簡集』の発見など、本研究を実施することで得られた成果は非常に大きい。本研究の成果を踏まえ、今後も研究の深化をはかりたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 小宮京	4. 巻 9月30日
2. 論文標題 会津の歴史認識と山川健次郎	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『WEBRONZA』	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小宮京	4. 巻 10月7日
2. 論文標題 会津の雪冤と山川健次郎	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『WEBRONZA』	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中澤俊輔	4. 巻 127(6)
2. 論文標題 二〇世紀の警察と防災	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『史学雑誌』	6. 最初と最後の頁 997-1012
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24471/shigaku.127.6_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小宮京	4. 巻 37
2. 論文標題 山川健次郎の留学に関する一考察 黒田清隆とその北海道開拓構想に注目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『青山史学』	6. 最初と最後の頁 39-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/20979	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤健太郎	4. 巻 858
2. 論文標題 政治教育と時事問題：及川儀右衛門の公民科教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本歴史』	6. 最初と最後の頁 59-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮京	4. 巻 8月25日
2. 論文標題 山川健次郎と日米親善	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『論座』	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小宮京・中澤俊輔	4. 巻 38
2. 論文標題 山川健次郎『書簡集』の基礎的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『青山史学』	6. 最初と最後の頁 79 - 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮京	4. 巻 61
2. 論文標題 山川健次郎と歴史編纂事業：『京都守護職始末』と『会津戊辰戦史』 「幻の附録」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『(青山学院大学文学部) 紀要』	6. 最初と最後の頁 99 - 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/21322	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小宮京	4. 巻 1147
2. 論文標題 東京帝国大学の停年制導入と山川健次郎総長	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『法律時報』	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中澤俊輔	4. 巻 92巻9号
2. 論文標題 史料の窓 明治6年の留学生帰朝命令と山川健次郎	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『法律時報』	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小宮京	4. 巻 5月4日
2. 論文標題 日本の学校はなぜ「4月入学」なのか? 100年前の大改革を振り返る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『論座』	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小宮京	4. 巻 9月16日
2. 論文標題 坂本龍馬はフリーメイソンだったのか?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『論座』	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小宮京	4. 巻 12月12日
2. 論文標題 フリーメイソンに昭和天皇は本当に興味を抱いたのか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『論座』	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中澤俊輔
2. 発表標題 近代日本の非主流派とナショナリズム 山川健次郎に見る忠君・愛国・科学
3. 学会等名 日本政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤俊輔
2. 発表標題 記念講演 山川健次郎先生に関する研究
3. 学会等名 山川健次郎顕彰会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤健太郎
2. 発表標題 佐々木惣一と政治教育 戦時期公民教育の断面
3. 学会等名 日本政治学会2018年度研究大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 佐藤健太郎・荻山正浩・山口道弘（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 570
3. 書名 『公正から問う近代日本史』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 健太郎  (SATO Kentaro)  (20580393)	千葉大学・大学院社会科学研究院・准教授   (12501)	
研究分担者	中澤 俊輔  (NAKAZAWA Shunsuke)  (50707891)	秋田大学・教育文化学部・准教授   (11401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------